

「この人によき事が なだれののよき起きます。」

人間関係が不得手の人、人に会ったら必ず、「この人によきことが、なだれののよき起きます」と念じることをお奨めします。

人間関係が不得手の人とか、鈍感な人は、多くの場合、自分のことばかり考えているんだよね。他人のことを考えていない人だよ。自分中心なの。自分が「正義」で「善」だと思っているの。「なぜ人は私の言っていることをわかってくれないのだらう」とか「自分に合わせないんだらう」とか思っているんだよね。この考え方は子供の頃から少しずつ形成されて徐々に育ってきたものだから、習慣といつか習癖になっちゃっているんだよね。このなると中々自分では直せなくなる。「この習癖を直していくには自分の習癖に集中して、直そう直そうとしても難しいんだよ。よく修行僧が自分の業」とか「因縁」を断とうとして滝にうたれるとか難行苦行をわが身に課していくといった、「行」の話を聞くに連れ、その難しさを実感するんだけど・・・。一人さんは、人に会うたびに心の中で「この人によきことが、なだれののよき起きます」と念じなさいと言っています。これは悪習そのものを直すことに意識を集中せず、「ただわらわ、その対立軸にある『善習』を育つていこう」といふことなんです。この「善習」を限りなく大きくしていけば、相対的に、悪習は小さくなり、顔を出していなくなる。これは他人の幸福を願って「心を豊かにして」「自分の悪習癖」を直そうという、自分のために行う「行為」なんだよね。毎日毎日、延べ千回二千回くらいやったら、随分心が豊かになり、悪癖が相対的に小さくなっていくと思うよ。心豊かな人って、話してて感じるんだよね。話が上手下手より相手のことをどれだけ考えることが出来るかで、人間関係は良くなっていくと思っよ。是非やっただけがよいよ。